

テーマ1 “聞こえ方”の不思議

4.録音した自分の声に違和感を感じるのはなぜ？

自分の声が録音されたものを聞くと、自分の声ではないような気がして違和感を感じることはありませんか？これは別に録音したレコーダーの性能に問題があるのではなく、実は自分以外の人は、あなたの声を録音された声のように聞いているのです。逆にいうと、本当の自分の声はあなたには聞くことができないのです。これはどうしてなのでしょう。

口から出た音は、空中を伝搬し、両耳に到達します。この空気が伝わった音は「気導音」といいます。一方で声を出した時の声帯の振動が頭蓋骨を通じて直接的に伝えられる「骨導音」という音も同時に自分の耳に伝えられます。

あなた以外の人はこの骨導音が届かず気導音だけを聞いています。録音された音も同じく気導音です。これに対してあなた自身は、気導音と骨導音を両方を聞いているため、結果として、他人が聞く音や録音された音とはかなり異なる認識になってしまうのです。

最近、骨導音イヤホンや骨導音マイクというものが登場しています。通常のイヤホンは耳を塞いでしまうため、まわりの音環境が聞こえなくなってしまう。例えば、車を運転しているときに携帯電話にでなくてはならないような時は、イヤホンからの音も周囲の音も聞こえなくてはなりません。2つの音情報を同時に処理することは、これまではあまりないシチュエーションでしたが、メディアが複雑になるにつれ、このような人間離れたことも要求される時代になってきたのでしょうか。

